

透析治療について

今回は循環器内科医 透析センター長

美馬敦先生に「透析治療」について伺いました。



▲美馬 敦医師

皆さまの状態に合わせて治療条件を細かく設定しています。

一方、自宅で行う「腹

膜透析」という方法もあります。お腹の中に透析液を入れ、腹膜という膜を通して老廃物を取り除く方法で、仕事や家事、育児との両立がしやすいという利点があります。自動の機械を使つて、夜間に寝ているあいだに行う人も増えています。

近年は、合併症を減らす生活に近づけることが大きな目標です。食事や運動、薬の工夫、感染対策などを含めた「トータルケア」により、10年、20年と元気に過ごす患者さんも多くなりま

した。大切なのは「透析にならないようにすること」と「もし透析が必要になつても、早く準備して自分に合った治療を選ぶこと」です。糖尿病や高血圧のある方は、かかりつけ医もしくは当院循環器内科医師とよく相談し、腎臓の検査を定期的に受けてください。透析は「人生の終わり」ではなく「新しい暮らし方のスタート」です。適切な医療と周囲の支えがあれば、これからも安心して

透析治療は「働きの弱まった腎臓の代わりに、血液をきれいにする治療」です。日本では約34万人が透析を受けており、いまや非常に身近な治療になりました。

もつとも一般的なのは

「血液透析」で、週3回、1回4時間ほど専用の機械を用いて血液を淨化します。最近、血圧が大きい自標です。食事や運動、薬の工夫、感染対策などを含めた「トータルケア」により、10年、20年と元気に過ごす患者さんも多くなりま

した。大切なのは「透析にならないようにすること」と「もし透析が必要になつても、早く準備して自分に合った治療を選ぶこと」です。糖尿病や高血圧のある方は、かかりつけ医もしくは当院循環器内科医師とよく相談し、腎臓の検査を定期的に受けてください。透析は「人生の終わり」ではなく「新しい暮らし方のスタート」です。適切な医療と周囲の支えがあれば、これからも安心して

した。大切なのは「透析にならないようにすること」と「もし透析が必要になつても、早く準備して自分に合った治療を選ぶこと」です。糖尿病や高血圧のある方は、かかりつけ医もしくは当院循環器内科医師とよく相談し、腎臓の検査を定期的に受けてください。透析は「人生の終わり」ではなく「新しい暮らし方のスタート」です。適切な医療と周囲の支えがあれば、これからも安心して

した。大切なのは「透析にならないようにすること」と「もし透析が必要になつても、早く準備して自分に合った治療を選ぶこと」です。糖尿病や高血圧のある方は、かかりつけ医もしくは当院循環器内科医師とよく相談し、腎臓の検査を定期的に受けてください。透析は「人生の終わり」ではなく「新しい暮らし方のスタート」です。適切な医療と周囲の支えがあれば、これからも安心して

した。大切なのは「透析にならないようにすること」と「もし透析が必要になつても、早く準備して自分に合った治療を選ぶこと」です。糖尿病や高血圧のある方は、かかりつけ医もしくは当院循環器内科医師とよく相談し、腎臓の検査を定期的に受けてください。透析は「人生の終わり」ではなく「新しい暮らし方のスタート」です。適切な医療と周囲の支えがあれば、これからも安心して

した。大切なのは「透析にならないようにすること」と「もし透析が必要になつても、早く準備して自分に合った治療を選ぶこと」です。糖尿病や高血圧のある方は、かかりつけ医もしくは当院循環器内科医師とよく相談し、腎臓の検査を定期的に受けてください。透析は「人生の終わり」ではなく「新しい暮らし方のスタート」です。適切な医療と周囲の支えがあれば、これからも安心して

社会福祉法人

財団法人 済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1-6

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp>

☎0898-47-2500



生活を続けていくことができます。